

第 355 回滋賀県内水面漁場管理委員会結果概要

◎第 355 回滋賀県内水面漁場管理委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

開催日時 : 令和 4 年 8 月 10 日 (水) 15:00 ~ 16:00

開催場所 : (一社) 環びわ湖大学・地域コンソーシアム会議室

出席者 : 委員 9 名、水産課 5 名、水産試験場 1 名、事務局 5 名

(1) 協議事項

・内水面漁場計画の樹立方針について

・令和 5 年の漁業権切替えに伴う内水面漁場計画の作成に向け、水産課より「滋賀県内水面漁場計画樹立方針 (案)」の概要の説明と、前回の樹立方針からの変更点についての説明がありました。委員からは、

- ・樹立方針案のうち、I. 基本方針について、外来魚についての記載が無くなっているのは問題が解決したという誤解を生みかねず、追記が必要と意見がありました。
- ・産業管理外来種であるニジマスの管理について、漁業協同組合の管理する漁業権漁場だけでなく、各河川の谷川支流を利用して運営されている釣り堀においてどのように放流、管理されているのか調査が必要と意見がありました。

(2) 報告事項

・アユ資源の状況について

- ・水産試験場より、毎月 1 回実施している魚群探知機による魚群数調査について、7 月分が平年値の 123% となり、今年の周回魚探の魚群数は 4 月を除いておおむね平均並みと報告がありました。
- ・エリ漁獲魚の平均体長および栄養状態を表す肥満度は漁期当初から平年値を下回り、その原因は餌となるプランクトンが少なかったためと考えられるが、4 ~ 5 月頃から大きくなっていると報告がありました。
- ・委員から、餌となるプランクトンが今年はなぜ少なかったのか質問があり、水産試験場より、近年琵琶湖の栄養状態が低下していることと、アユが多く生まれすぎたことが原因ではないかと説明がありました。
- ・委員から、人工河川への放流後、アユの健康状態についてきちんと管理してほしいと意見がありました。